

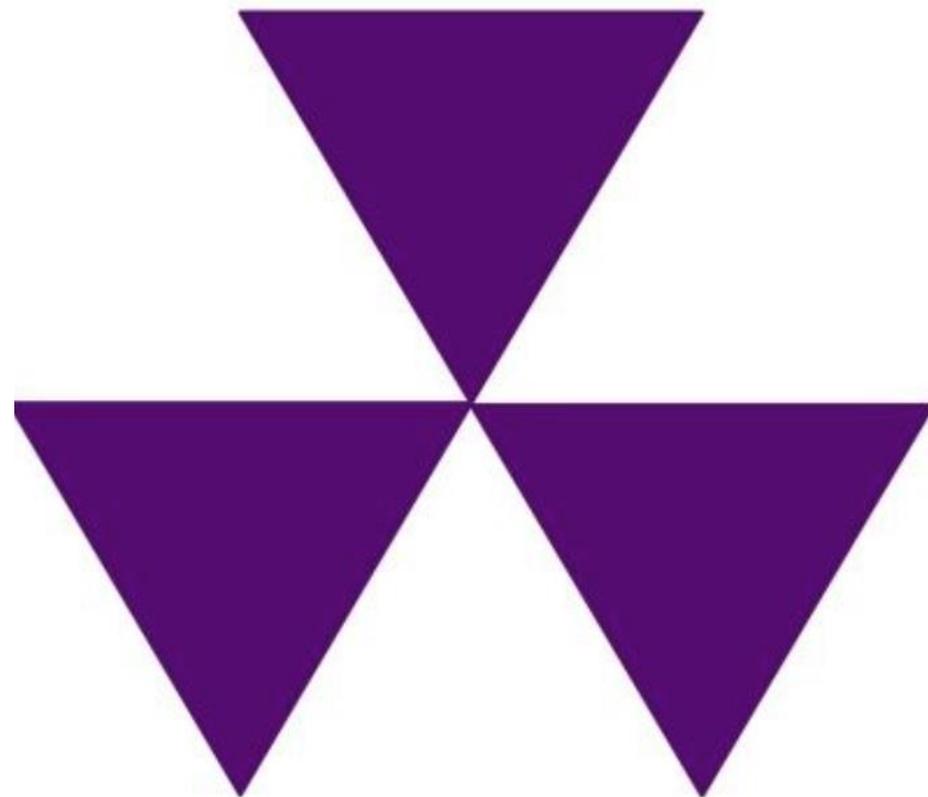
関関同立英語分析シリーズ

同志社大学



同志社大学 英語分析

- ① 問題構成について
- ② 試験概要について
- ③ 出題傾向について
- ④ 対策法について



①問題構成について

全日程・全学部で同様の出題形式 過年度も大きな変動はない。

ただし、1999年度以前の問題は長文(評論文)問題のみの出題になっていて、その問題形式も一部変わっており、会話文・英作文がないので、注意が必要。

② 試験概要について

- ・ 試験時間：100分
- ・ 配点：200点満点(学部差あり) 問題数は約50問
- ・ 形式：大問数は3問 およそ80%がマーク式、
残り20%の和訳と英作文が記述式である。
 - 〔1〕 長文読解+日本語訳(20点満点?)
 - 〔2〕 長文読解
 - 〔3〕 会話問題(4点×8問?)+英訳(18点満点?)

③出題傾向について

5

大問1・2（長文2題）

約 900 語・約 700 語とかなりの分量。時間配分としては、各 1 題に付き 35 分、下線部和訳問題に書ける時間を 5 分、合計 75 分で解く。長文のテーマは様々な分野から出題され、論文やインターネットの引用から、時事的な記事の出題も多い。ただし、個別学部試験に関しては、各学部向けのテーマを扱っていることもある。

③出題傾向について

大問1・2（長文2題）

空所補充と下線部一致について 単語や熟語・あるいは文法の知識が問われるが、問題のタイプとしては、知識だけで解く問題、知識と文脈両方考える問題、文脈で判断する問題の3種類がある。文脈型問題も中には難しい問題があるが、空欄補充の方は簡単で、文脈をしっかりと読みこんでいたら解ける問題が多い。

③出題傾向について

7

大問1・2（長文2題）

英文完成問題について

本文の一部の文から、3か所の空欄の中から適切な語句を入れる問題。知識さえあれば解ける問題。

内容一致問題について

選択肢 8 問の中から 3 つ選ぶ形式の問題。この配点は高いと予想される。

③出題傾向について

大問1・2（長文2題）

下線部和訳について

下線部和訳問題に関しては、標準レベルがほとんどなので、問題によっては満点が狙える。採点基準が不明瞭なので、確かなことは言えないが、重要な文法や構文を見落としていた訳を書いた場合は0点になり得るので、注意が必要。

③出題傾向について

大問3 会話文空所補充と英作文

同志社大学の会話文の問題は標準レベルの出題なので満点を狙える。

会話長文で、その中の空欄補充問題が4問になっており、難しい会話表現の知識が問題で聞かれることはない。基本レベル頻出の会話表現はしっかりと押さええてほしいが、会話表現の暗記よりも会話の流れをしっかりと押さえるということが重要。

③出題傾向について

10

大問3 会話文空所補充と英作文

英作文は、日本語文が2文程度、あるいは3文程度の長さで出題される。国公立のように「自由英作文」の問題ではなく、「和文英訳」の問題になっている。だが、なかなか満点をとることはできない。

その理由は和文が「口語体」つまり「書き言葉」ではなく「話し言葉」になっているからである。安易な直訳には注意が必要。

④対策法について

論理展開を表すマーカー(接続詞・接続副詞・前置詞群など)を空欄に入れる形で聞いてくるので、それを一通りししっかり覚えておくこと。

また、下線部一致問題で、単語の語彙力を知らなくてもその空欄部分の言わんとすることをしっかり読み込んだら解ける問題もよく出題されるので、それを確実に得点できるよう過去問で練習するように。

④対策法について

12

他の問題に共通して言えることだが、解き方としては a.空欄(もしくは下線部)を含む一文をしっかりと意味を押さえる。 b.空欄(もしくは下線部)の前後の文のつながりを意識して解く。

空欄の近くを見れば解ける問題が多いとよく言われますが、もちろん該当箇所が離れていることもあるので注意。

④対策法について

英文完成問題について

本文の一部の文から、3か所の空欄の中から適切な語句を入れる問題です。上記の1とやや2寄りのタイプで、純粋な文法の独立問題なので、ここは知識さえあれば解けるものになっている。

長文の客観問題はもちろん、文法問題でも、4択問題に関しては消去法で解くのがおススメ。正解の選択肢は本文の表現を言い換えている。

④対策法について

14

簡単な問題は別として、本文そのままの表現になることはほぼない上に、その言い換えは極めて巧妙にできています。

したがって、本文の解答の根拠を見つけて、それと選択肢を見比べても、選択肢によってはこれが正解だと断定できないこともある。

④ 対策法について

15

この消去法を使って、本文の該当箇所からこの選択肢は×、というようにすべての選択肢に理由を付けて消して、この選択肢は正解かも知れないし、×ではないけど微妙だと思えるものは一旦保留にしておく流れで解答しよう。

その残った選択肢が正解になる。この解き方をマスターすれば、センターや他の大学の客観問題でも使えるので、この消去法はおススメ。



関関同立英語分析シリーズ

同志社大学

